



ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No.260

2018年

1~2月号

2018年の年頭に当たって

会長 間野吉幸

2018年の年頭に当たり一言ご挨拶申し上げます。今年は3月で45周年を迎え、次なる50周年に向けての一步を踏み出す年になります。

昨年の会の活動を振り返って見ますと幾つか特筆すべき事項があります。一つは手賀沼の水鳥調査です。この調査は1977年より毎月続けられております。手賀沼の水鳥の数は2012年まで年々減少を続けておりましたが、その年を底に少しずつ上昇に転じました。2017年は2002年のレベルに回復しました。回復の理由の一つに手賀沼北岸の植生帯の整備により野鳥の休息の場が確保できたことが考えられます。手賀沼の水鳥の回復傾向は大変喜ばしいことであります。

会の基本活動である定例探鳥会、遠出探鳥会は、野鳥に対するストレスを出来るだけ少なくする野鳥観察と会員相互の親睦を深めて参りました。また、より多様な野鳥との出会いを求め、定番の探鳥地以外の探鳥会を実施するなどし、活動のダイナミズムと新たな発見を得るなどの探鳥会の成果が上がりました。この流れは今後も継続して行きたいと考えています。

野鳥啓発活動にも大変力を入れて参りました。特にJBF2017では、オオバン広場のメインブース、湖畔バードウォッチング、船上バードウォッチングの探鳥ガイドを行い各会場とも大変好評を得ました。また市民のチカラまつりやEnjoy手賀沼のイベントに参加、市民向けの各種探鳥会の企画・指導や児童や先生向けの講演など色々な啓発活動をしてまいりました。そのようなこともあり当会の会員数は家族会員を含め230人を超えました。

会員の声を一つひとつ聞きながら、会の目的達成に向けて地道に活動を積み上げていくことが大切と考えます。今年もよろしくお願い致します。

行 事 案 内

1月手賀沼探鳥会

期 日 1月14日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 本年最初の定例探鳥会です。冬鳥の最盛期で、手賀沼には、ミコアイサなどの水鳥が、そろっています。猛禽類は、ミサゴ、ノスリ、ハヤブサなどが、葦原では、ベニマシコ、オオジュリンが認められるでしょう。昨年1月の探鳥会では、45種が認められましたが、本年は、多くの皆さんの目で、より多くの鳥が認められることを期待しましょう。

解 散 正午
担 当 船津

2月手賀沼探鳥会

期 日 2月11日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 最も寒さが厳しい時期での探鳥会ですが、冬鳥の観察にはベストシーズンです。近年、手賀沼の水鳥がやや増加傾向にあり、きっと多くのカモやカイツブリ類が私たちを待っていることでしょう。遊歩道では葦原のオオジュリンやベニマシコなどの小鳥たち、上空にはミサゴにチュウヒなど猛禽類が、農耕地ではタゲリが見られるとうれしいですね。50種(2010年2月に記録)を目標に鳥たちを探してみましよう。防寒対策を忘れないように。

解 散 正午
担 当 桑森

1月、2月ピオトープ調査

期 日 1月4日(木) 雨天延期
2月1日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分
案 内 1-2月はコガモ、ツグミ、アオジ、ユリカモメが見られるようになり、ミコアイサ、ハジロカイツブリ、チヨウゲンボウ、ノスリなどが見られることもあります。野鳥は昨年1月23種、2月21種、観察しました。木の花はサザンカの花、ラクウショウ、メタセコイアの房状の雄花が、野草の花はホトケノザ、オオイヌノフグリ等が咲き、春を待つロゼット状の葉も観察出来ます。冬のピオトープ周辺の風景、動植物を観察しながら、探鳥をしてみましよう。参加希望の初めての方は下記までご連絡頂き、当日は五本松公園キャンプ場の駐車場に9時までにお越しください。

解散 午前11時30分
担当 鈴木静治
Tel: 080-3121-4757

1月、2月手賀沼定点カウント

期 日 1月5日(金) 雨天延期
2月6日(火) 雨天延期
集 合 我孫子市役所 午前9時
解 散 正午予定
担 当 金子雅幸、船津登、桑森亮
連絡先 桑森亮
Tel: 04-7182-3149

江戸崎・神之池・小見川探鳥会
(再掲載)

期 日 1月8日(月・祝) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 2年連続で年末に開催されていま
したが久しぶりに新春探鳥会にな
ります。探鳥コースは昨年から逆コ
ースで回ることになり、江戸崎(稲
敷市稲波干拓地)~神之池(神栖市)
~小見川の葦原となります。猛禽類
から水鳥まで多くを楽しめ、例年
50種以上が観察されています。江
戸崎のオオヒシクイ、神之池のミコ
アイサ、小見川のタカ類・コミミズ
クやほかの鳥たちとの思わぬ出会
いに期待しましょう。

交 通 自家用車分乗。同乗者は運転者に一
人1500円をお渡してください。申し
込みの際、自家用車を提供可能な方
はその旨連絡ください。

持 物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途
中購入可能)

申 込 小澤淳宏まで
携帯 090-4756-4607

担 当 小澤、松田

印旛沼・別所探鳥会

期 日 1月21日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 印西市の北印旛沼も吉高揚排水機
場と甚兵衛公園の東側堤防より水
鳥、葦原の鳥、鷹などを探してみま
しょう。印西市別所の調整池では水
鳥、特にオシドリ、ヨシガモを、そ
の周辺の林では林の鳥、草地の鳥を
探してみましょう。

交 通 自家用車分乗。同乗者は運転手に
一人1,000円をお渡してください。
自家用車を提供可能な方は参加申
し込み時にお知らせください。

持ち物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途
中購入可能)

申 込 鈴木静治まで
申し込み締切 1月14日
Tel: 080-3121-4757

担 当 古出、石井、鈴木(静)

手賀沼船上冬鳥観察会

~旬の手賀沼の野鳥を船上から
観察して楽しみませんか~

冬の手賀沼は野鳥観察のベストシーズン
です。冬鳥が手賀沼にたくさん集まります。
船上からのバードウォッチングは陸からの
探鳥と全く違った景色が満喫できます。カン
ムリカイツブリ、オオバン、コガモやマガモ
などのカモたち、アオサギ・ダイサギ・コサ
ギのサギたちや猛禽のミサゴなど多くの野
鳥に会えるでしょう。運が良ければカワセミ
の飛ぶ姿も見られます。

身近に冬鳥が観察できる船上観察会への
参加をお待ちしています。暖かい身支度でお
いで下さい。この冬鳥観察会は我孫子環境レ
ンジャーとの共催で行います。

日 時 1月28日(日) 午前10時~11時頃
(荒天中止) 集合午前9時50分
場 所 手賀沼(手賀沼公園ボートの小池前
集合)

人 員 32名(先着順)

問合せ&申込先 我孫子市手賀沼課

04-7185-1111(内線26-468)

申込み受け付けは1月16日午前受付開始、
その前の受付はできないのでご注意ください。
い。

第28回野鳥サロン

新年を迎えて、新しいテーマの「野鳥サロン」
に参加してみませんか?

テーマ:

「人の身体は治るようになっている」

iPSと他の細胞の不思議

<常盤孝義さん>

講師の常盤さんは公益法人「河野臨床医
学研究所」の研究所長です。

もちろん当会の会員でもあります。野鳥の話とは異なりますが、医学の最先端の話聞いてみませんか？

「野鳥が好む樹木」

< 船津、野倉、野口 >

日頃、野鳥を観察する時に野鳥が好む樹木のあることに気付きます。

そんな事例を皆さんと一緒に話し合ってみましょう！

日時 1月28日(日) 13:00~15:00

場所 アビスタ2階 第2学習室

会費 一人 300円 (茶菓子代)

申込 野口隆也まで

Tel: 090-5069-5055

準備の都合上1月21日(日)までにお申込み下さい。

担当 船津登、野倉元雄、野口隆也

井頭公園探鳥会

期日 2月3日(土) 雨天中止

集合 我孫子駅北口 午前8時

交通 中型バス

(アビコ西武観光 04-7182-0486)

案内 毎年恒例の探鳥会です。公園内の池には沢山の水鳥、遊歩道にも多くの鳥を観察することが出来ます。

例年ミヤマホウジロ、トラツグミ、ベニマシコ、マガモ、ミコアイサ、ヒドリガモ、など40種以上観察しています。寒さを忘れて?しまうかも恐れませんか。

定員 27名

費用 3000円

持物 観察用具、防寒着、弁当(途中購入可)、念のため雨具

申込 松本勝英まで

申し込み締切 1月25日

(人気の探鳥会ですので定員に達しましたら締め切らせていただきます)

Tel: 04-7187-1704

担当 小林(寿)、松本、村井

酒沼・平磯海岸探鳥会

期日 2月18日(日) 雨天中止

集合 我孫子駅北口 午前8時

案内 オオワシは今年も来て呉れるのか?若干懸念される処ですが、ミコアイサやハジロカイツブリの群泳、多くのカモ類に猛禽類と見どころも多い酒沼。少し足を伸ばして平磯海岸ではシノリガモ、ウミスズメ、カモメ類等を楽しもう...と言う少し欲張った探鳥会です。何しろ見られる鳥の種類が多いのが特徴ですので、是非ご参加頂きたいと思えます。

交通 自家用車分乗です。同乗者は一人2000円を運転者にお渡し下さい。尚、自家用車を提供可能な方は、申込時にその旨をご連絡下さい。

持物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可)

申込 金子雅幸まで

Tel: 04-7133-6944

担当 船津、金子

行徳・江戸川探鳥会(3月実施)

期日 3月4日(日) 雨天中止

集合 我孫子駅改札口 午前7時50分

または行徳駅 午前9時

定員 20名

案内 江戸川(放水路)河口、行徳鳥獣保護区でカイツブリ、サギ、カモ、ウミアイサ、タカ・ハヤブサ、カモメ、越冬シギチ類などを観察してみましょう。行徳野鳥病院も見学します。

なお、行徳鳥獣保護区はぬかるみが多いので長靴が必要で、行徳野鳥観察舎スタッフの案内でまともって行動します。この探鳥コースにはコンビニがありませんので、お昼ご飯は持参または途中の駅中・前のコンビニで買い求め下さい。またトイレが少ないのでト

イレのある場所で早めに済ますよう
お願いします。行徳鳥獣保護区の中
にはトイレがありませんので、入る前
に済ませてください。

持 物 観察用具、雨具、長靴、防寒具、昼
食

交 通 電車

我孫子 8:02 8:15 新松戸 8:19 8:34 西船
橋 8:42 8:50 行徳

行徳駅—江戸川河口、江戸川河口—行徳保
護区間はバスで移動(バス代 360 円)

解 散 15:30頃、現地解散

(帰りは行徳保護区近くの行徳高校前より
新浦安駅、市川塩浜駅行きのバスが便利)

申 込 弘實和昭まで

Tel: 04-7185-2695

担 当 相良直己、弘實和昭

見ることのできる期待の探鳥地で
す。

費 用 別途(概算 14 万円前後 為替・参
加人員等で変化します)

定 員 20 名(先着順)

募 集 1 月 1 日~1 月 31 日(飛行機・宿
泊手配のため)

条 件 ・当会会員であること
・パスポートの有効期限が半年以上

申 込 間野吉幸まで

Tel: 080-3410-8119

お 願 い 申込時に下記内容をご連絡下さい。

旅券記載のローマ字氏名

生年月日(西暦)

旅券番号・発行日・有効期限

電話番号(固定電話と携帯電話)

メールアドレス

担 当 古出、坂元(貴)、田中(功)、弘實(和)、
間野

台湾探鳥会 (6月実施)

期 日 6 月 18 日(月)~6 月 22 日(金)

探鳥地 台湾北部(宜蘭 大雪山国家森林遊
楽区、台北植物園)

案 内 台湾の林さん(台湾野鳥保育協会理
事長)ご夫妻案内による探鳥会
です。

今回の探鳥会の特徴は、ヤイロチ
ョウ観察の期待と台湾の山岳・丘
陵部の特徴的で個性豊かな多くの
種類の鳥達を満喫する探鳥会です。
ヤイロチョウは、林さんに直接現
地ご案内していただくことになっ
ており、観察の可能性はあると期
待しています。大雪山森林遊楽区
では鞍馬山に 2 泊し、じっくり山
鳥を観察します。ここでは約 100
種が繁殖していると言われ、運が
良ければミカドキジをはじめ様々
な台湾特有種との出会いなどに期
待を膨らませています。台北植物
園は大都市の中心にありながら、
広大で自然植生豊かな環境の中、
実に多くの種類の鳥達を近距離で

1 月役員会案内

日 時 1 月 14 日(日) 13:00~15:30
(開始時間に注意!)

場 所 水の館 3F 研修室

議 題 平成 29 年度の反省と平成 30
年度に向けて
会報 261 号掲載予定記事
第 3 四半期会計報告
第 29 回「野鳥サロン」
報告事項

・「市民のチカラまつり」出展
結果

・対外対応状況 他

その他(議題のある場合は桑森
までご連絡ください。

お知らせ

「写真集 2017」応募写真募集

今年も「我孫子野鳥を守る会写真集」の応募写真を募集します。

この写真集は2007年に始まりましたので今年で11回目になります。

この写真集は、会員皆様の傑作を会員間で楽しむと同時に、会員の撮影した写真を写真データベースとして記録し、会の活動に役立てることを目的にしています。

過去10回の写真集は会の活動に大きく寄与しています。今年度も編集を相良・北崎が担当いたします。

応募写真の条件、ファイル名、応募方法等はこれまでと同じです。

確認が必要な方は、昨12/1付け、担当相良発信の配信メール【ab-yacho :02736】を参照ください。

配信メールの受信ができない方は担当相良までお問合せください。

皆様の奮っての応募をお待ち申し上げます。初応募の方、大歓迎です。

なお、当写真集は、「2017年度当会活動の記録DVD」に収録され、4月の総会以降ご希望の会員の皆様に実費にて配布されます。写真集写真応募者には無償にて提供されません。

行事報告

10月手賀沼探鳥会

日時 2017.10.08 9:05~12:05
曇りのち晴れ 微風 20~26

サマータイムから通常に戻った今月は、季節外れの冷気が去り、3日ぶりの晴天は汗ばむほどの暖かで全くの探鳥日和になりました。

冬の手賀沼の使者カモたちが月初めの「カウント」で3桁に届いた直後で、やや不安はあったが、予想通り、下沼ではヒドリガモ、マガモ、コガモの小群が飛来していた。まだ落ちつかない様子で彼岸付近で飛翔したり着水したりしていました。

探鳥途中、賑やかなのはモズの高鳴きが随所で聞かれました。また大津川のナガエツルノゲイトウの繁茂で水面は寂しかったが、ミサゴが雄姿を見せてくれました。葦の穂先の小型の鳥をノビタキかどうか図鑑片手に確認問答があり、背と頭の茶色、シルエット、腹の白さからノビタキと決めました。

冬鳥としては、今一で、ジョウビタキ、カワラヒワを認めるに留まりました。33名の参加で35種で、時期的には、まあまあの結果と云えると思いました。

<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、ムクドリ、ジョウビタキ、ノビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計35種 番外：カワラバト

<参加者> 肥後邦彦、弘實和昭、西城猛、関口英治、関口久美、桑森亮、小澤淳宏、類地佑子、千葉洋、金子幸子、坂元孝行、坂元貴子、船津登、村瀬和則、野倉元雄、北崎正典、田丸喜昭、相良直己、小林博之、小林美智子、高波宣子、青木明、石井俊子、渡辺政一、常盤孝義、菊地幸雄、菊地昌江、古出洋子、中根文世、間野吉幸、大野眞澄、百瀬喬（担当）松本勝英 計33名

10月手賀沼定点カウント

調査日時 2017.10.3 9:00~12:00
曇り時々霧雨 22~25

雨は朝の内に止んだが、薄モヤがかかり遠くのカモ類の識別に苦労した。

カルガモの確認数は今年最高となり、日ごとに増えてきたコガモやチュウサギの小群が幾つか見られたことなどもあり、3月度以来の500羽近くをカウントした。

染井入落して、セッカとノビタキが数羽飛び交う様子が確認できた。

1月～10月累計で、前年より1500羽以上多い5800羽台に乗った。

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	0	19	19
カルガモ	107	59	166
コガモ	28	15	43
カイツブリ	7	3	10
カワウ	29	71	100
コサギ	0	1	1
アオサギ	12	4	16
ダイサギ	15	12	27
チュウサギ	3	86	89
コサギ	16	5	21
バン	0	1	1
オオバン	2	4	6
合計	219	280	499

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸 計3名

10月手賀沼ピオトープ調査

調査日時 2017.10.5 9:30～11:30
晴れ 弱風 20

先月鳴いていた蝉の声はもう聞こえず、虫の音、モズの高鳴きに変わり、真っ赤なナツアカネ、山から帰ってきたアキアカネが飛ぶ。10-30羽の群れで斜面林より沼を渡るヒヨドリの群れが頻繁に見られた。上空をヒラヒラ飛ぶカケスが、観察対象外の沼中央に200羽位の渡りのカモの群れも見られた。青々した刈田ではチュウサギが餌探し、ピオトープの葦原でクイナ、ホオジロが動き、池をコガモ、カルガモ、コブハクチョウが泳ぎ、ダイサギ、コサギが餌獲り。カワセミが飛ぶ。沼岸の葦原よりヒクイナの鳴き声、ヨシゴイが飛び立つ。観察した野鳥22種222羽、他に

木の花2種、実9種、野草の花28種、花穂、実18種、蝶7種、蛾3種、トンボ3種、蠅、アブ3種、バッタ5種、甲虫2種、カマキリ1種、カメムシ4種、カナヘビ1種、クモ1種、蛙2種を観察しました。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、クイナ、ヒクイナ、バン、カワセミ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、スズメ、ホオジロ 計22種

<調査者> 鈴木静治、間野吉幸、船津登、池田日出夫、古出洋子 計5名

11月手賀沼探鳥会

日時 2017.11.12 9:00～12:00
晴れ 微風 18

快晴の「探鳥日和」に誘われて、40名の方が参加されました。新入会員のうち3名はJBFがきっかけで参加してくれた方です。冬鳥のカンムリカイツブリやユリカモメ、カモ類、アオジ、オオジュリン等が確認でき、常連さんのカワセミやハヤブサも観られました。ミサゴはおいしいそうに何か(魚?)を食べていました。思ったより冬の小鳥が観られませんでした。もう少し落ち着いてくると彼らも賑やかに顔を出してくれることでしょう。最後に電柱の上のノスリを観てメとなりました。観られた鳥は40種で、ぴったり参加者数と同じでした!!

<認めた鳥> コブハクチョウ、オカヨシガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、キンクロハジロ、スズガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、クロハラアジサシ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計40種 番外：カワラバト
<参加者> 桑森亮、相馬唐代子、藤川俊彦、

小池忠彦、野口隆也、肥後邦彦、宮本秀樹、徳重玲子、村瀬和則、斎藤和夫、船津登、松田幸保、金子幸子、渡辺俊文、西城猛、類地佑子、佐藤弘美、千葉洋、菊池幸雄、小林美智子、常盤孝義、松本勝英、高波宣子、石渡成紀、小澤淳宏、野倉元雄、田丸善昭、田丸メリールイス、新堀正則、木村稔、間野吉幸、関口英治、関口久美、古出洋子、野口紀子、鈴木静治、坂元孝行、坂元貴子(担当)小林寿美子、村井みとい 計 40 名

11月手賀沼定点カウント

調査日時 2017.11.1 8:30~11:30
 晴れ 微風 12 ~ 18

晴天、微風とカウント日和で前年より 200 羽多くカウント出来た。カモ類も 8 種観察され、11 月までの累計総数では昨年 1 年間の数字を上回り、今年では 2003 年以來の 7000 羽台が確実となった。(ひよっとすると 2002 年以來の 8000 羽台も?)

ヒドリ橋近くの松の木で、手賀沼では珍しいクイタダキが数羽みられたり、クロハラアジサシが上・下沼で観察された。

調査種	上沼	下沼	合計
コハクチョウ	16	12	28
カサガモ	4	0	4
ヒトリガモ	0	33	33
マガモ	1	33	34
カルガモ	8	11	19
ハシロカモ	0	2	2
オガガモ	0	5	5
コガモ	290	19	309
ホシヅロ	0	5	5
カイツブリ	12	6	18
カムフラカイツブリ	35	57	92
ハシロカイツブリ	0	8	8
カウ	115	38	153
ゴイサギ	0	13	13
アオサギ	16	6	22
ダイサギ	4	8	12
コサギ	0	16	16
オオバン	42	26	68

コハク	17	3	20
クロハラアジサシ	2	4	6
合計	562	305	867

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸 計 3 名

11月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2017.11.2 9:30~11:15
 晴 弱風 17

ビオトープより見える斜面林は緑の中の赤、黄色の紅葉した木、柿の橙色が散在し綺麗。沼の上空は群れで飛ぶカモ類が多く、カモメ、アジサシ類も飛ぶ。晩秋の雰囲気。水田では二番穂の出だした田の水溜りで餌を探すコサギ、茂み上を飛ぶホオジロが見られた。ビオトープの池ではアオサギ、コサギ、ダイサギが餌探し、オオバン、カイツブリ、カルガモ、コガモ、コブハクチョウ、バンが泳ぎ、葦の茂みでウグイス、アオジ、ホオジロが地鳴き、その上をカワセミ、カワラヒワ、スズメ、セグロカモメが飛ぶ。大きい木の頂でモズの高鳴き。沼には上空を渡り途中のクロハラアジサシが飛び、沼岸の葦原でカイツブリが鳴き、桜の頂でホオジロが囀る。カウウが沼岸近くを飛ぶ。観察した野鳥は 21 種 164 羽。他に木の花 1 種、実 10 種、野草の花 3 種、花穂、実 5 種、蝶 6 種、トンボ 3 種、蠅 2 種、バッタ 2 種、カマキリ卵のうち 1 種、蜘蛛 1 種、蛙 1 種、カイガラムシ 1 種を観察しました。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カウウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、セグロカモメ、クロハラアジサシ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計 21 種

<調査者> 鈴木静治、間野吉幸、池田日出男、船津登、金子雅幸、千葉洋、古出洋子、蒲田知子 計 8 名

第17回ジャパンバードフェスティバル (JBF2017)

<総括報告>

JBF2017が11月4日(土)、5日(日)の両日にわたり、水の館・親水広場・オオバン広場(多目的広場)・アビスタを中心に開催されました。当会は昨年引き続き、オオバン広場ブース、湖畔BW(噴水前デッキ)、

船上BWの船内ガイドで各種活動を展開しました。

両日とも好天でしたが、前夜の雨の影響でオオバン広場の地面がぬかるみ、オオバン広場ブースへの来場者が昨年よりやや少なくなりましたが、内容的には例年並みの印象で、湖畔BWは昨年以上の来場者で賑わい、船上BWは有料化による影響が心配でしたが全7便とも早々と満席になるなど、多くの方々に当会の活動やバードウォッチングの楽しさを知ってもらい、人と野鳥の共存について関心を深めてもらいました。その成果として、JBFの際に4名の方が、11月の定例手賀沼探鳥会でも3名の方が新たに入会されました。

また、今回も昨年に引き続き台湾とモンゴルをサポートするとともに交流を深め、何れのブースも盛況でした。

2日間を通して、当会への来場者総数は3,161名(昨年は3,305名)で、会員参加者は前日準備を含めて延べ97名の皆さんにご協力を頂きました。担当幹事の皆さん、支援スタッフ会員の皆さんの総力が結集され、無事成功裏に終えることができました。皆さんのご協力に感謝申し上げます。

なお、各ブースの詳細については、各グループリーダーから報告されます。

(事務局 桑森)

<メインブース パネル展示>

今年度は、「我孫子野鳥を守る会の活動と手賀沼の水鳥の変遷」をテーマにパネル展示を行いました。

1: 会の活動の紹介では下記3つの観点からパネル展示を行いました。

1-1) 当会の活動の概要

1-2) 今年度新規探鳥会(三宅島、北海道、

富士北麓)での写真

1-3) 当会国際交流の紹介

上記1-2)と1-3)に関しては、本年度の当会映写会発表作品、当会ホームページ・ギャラリー掲載写真より、メインブースのタスクチームで投票を行い、計18枚の写真を選定しました。その上で、撮影者のご同意を得て、パネル掲載しました。

さらには、昨年度人気であった写真に加え、新たにタスクチームが選定した会員撮影の美しい鳥、魅力的な写真10枚をラミネートし、ブースのテント外壁に、暖簾状に掲示しました。

多くの来場者の皆様が足を止め素晴らしい写真の数々に魅入っておられました。写真の提供・掲示にご同意いただいた会員の皆様ありがとうございました。

2: 手賀沼の水鳥の変遷に関して当会の手賀沼水鳥カウント調査データをベースに手賀沼の水鳥の推移をパネル2枚にまとめ掲示しました。

来場いただいた多くのお客様が熱心に説明に耳を傾けて頂き、手賀沼の水鳥の状況に関し、関心を高めていただきました。

3: 今年度のメインブースでの変更点
今年度は、これまでの経験と反省を活かし、以下の改善を行いました。

3-1) 高精細な写真印刷

今回は、新たな方法で高精細な印刷を行いました。これまでのパネル展示に比べ、会員の写真の素晴らしさをそのまま表現し、多くの来場者から大画面に引き伸ばしてもこの美しさが表現できていることへの驚きの声と質問をいただきました。

3-2) メインブースのレイアウト変更

新たな入会希望者や、当会の賛同者、ファンを一人でも多く創るためには、ブースの中まで、来場者を誘導し、パネル展示を丁寧に見て頂き、説明を十分に聴いていただくことが必要と考え、来場者をブースの中まで誘導しやすくするためのレイアウト変更を試みました。その結果、4名の新入会員の獲得が実現し、昨年以上に多くの皆様から探鳥会へ参加してみたいとの声を頂きました。

最後に、ブースでの接客、説明等にご協力いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。(担当 相良)

<パタパタ工作&野鳥塗り絵>

例年通り「パタパタ工作」6種、「野鳥塗り絵」14種を実施しました。

机の配置を変え、また、トレイ等を活用して机上を整理したため、作業がしやすくなりました。

今年はなぜかパタパタ工作に人気が集申し、参加者は前年比 111.4%の 304 名、特に「ミサゴ」は用意した台紙 77 枚が完売でした。親子連れだけでなく、年配の方、若い方の参加も目立ったように思います。

お手伝いくださった 13 名の方々、有難うございました。

(担当 野口(紀))

<庭に鳥を呼ぶ>

庭に鳥を呼ぶため、餌台を作る方法、実のなる木を庭に植える方法、また 山野の草の種子等を紹介しました。餌台は牛乳紙パックを利用したフィーダーにミカン(メジロ用)、針金に殻付きピーナッツ(シジュウカラ用)またはスダジイとマテバシイ(カケス用)を串刺しにし吊る方法を、庭に植える実のなる木は色鮮やかで、小鳥が食べやすい大きさのコムラサキ、センリョウ、ナンテン、ピラカンサ等を、野の草はヒメガマ、エノコログサの穂、ヒヨドリジョウゴ、サルトリイバラの実等を生花方式で、綺麗なカラスウリ、スズメウリ、ムベ等を吊り下げ方式で展示しました。日用品で手軽に作れる可愛い牛乳紙パックの餌台、ペットボトルの餌台、串刺し殻付きピーナッツは女性を中心に作ってみようという人が多く好評でした。木の実では縁起の良い草木(千両、十両：ヤウコウジ、打出の小槌のカラスウリ)、日本特有種のスズメウリ等を展示、説明しました。一両：アリドオシ、十両：ヤウコウジ、百両：カラタチバナ、千両、万両の名前の由来、分布、エピソード等を紹介すると、見学者の興味を引きました。なお、小鳥を庭に呼ぶことが出来、金運に恵まれる万両の苗木約 50 鉢を用意し希望者に無料で配布しました。

(担当 鈴木)

<船上バードウォッチング>

今回から、船上バードウォッチングは、従

来のシステムとは大きく変わり実施されました。

第一に「有料化」になったこと。第二に初日 1 便増便し 4 便になったこと。更に、これらにより運営全般の役割と責任が当会ではなく、JBF 実行委員会に移行され、当会は船上でのボランティアガイドとその支援という組織態勢で行われました。

その目的は、遠方からの乗船希望者に対する公平性を保つことであり、その趣旨については異論なく想定される混乱を少なくするべく、実行委(手賀沼課)と当会(担当者)にて数度に亘り検討、改善および分担内容の確認などがなされました。

当会の体制は、予見される事象への対応を考慮しメインガイド 1 名、サブガイド 2 名、乗船場前テント詰め 2 名という従来とあまり変わらない体制で臨みました。

一人(席)500 円という値段、広報内容による行き違い、混乱のため乗船者数の減少を危惧しましたが、結果は、予想外にも、嬉しい誤算で「全便満席」(!)と大盛況でかつ無事故に終えることが出来ました。

天候は、両日とも運航時間帯は、ほぼ快晴・微風でしたが、初日の第 4 便の後半は薄暗くなり始め、若干風が強まりました。

「鳥果」は、全 7 便の順で、24、20、20、19、21、22、21 種で、延べでは 29 種となり前年比微減の結果でした。乗客者は、我孫子市内 40 名、県内他市 68 名、東京都が 59 名、神奈川県 30 名、茨城県 12 名、埼玉県 13 名と続き、栃木・山梨・群馬からも数名、更に沖縄、台湾、香港からの参加を頂き、7 便合計で 246 名でした。

(担当 松本)

<湖畔バードウォッチング>

11 月 4 日(土)の天気は、晴のち曇で、日中は、上着を脱ぐほど暑くなりました。来場者は、天気が良かったこともあり、1,322 人で昨年より大幅に多くなりました。

認められた鳥は、上空を飛ぶトビ、ミサゴ、オオタカ、葦原の上を飛ぶチュウヒと猛禽類 4 種、珍しいクロハラアジサシを含め 26 種でした。昼前に足漕ぎスワンボートが、カップ像に近づき、像に止っていたカワウ、コサギが逃げてしまい、その後戻らず残念でした。

葦原の杭に、カワセミが良く止り、多くの来場者を呼び込むことができました。

11月5日(日)の天気は、晴でした。来場者は、936人と昨年より増えました。午前10時頃に、ヨットレースが始まり、1艇のヨットがカップ像に近づき、今日も鳥が逃げてしまいました。

認められた鳥は、前日と同様の猛禽類4種とクロハラアジサシを含め28種でした。葦原の先の杭に止るミサゴ、葦原の杭に止るカワセミが見られ、多くの人が「きれい」などの声をあげていました。しかし、全体的に鳥が少なく、特にカモ類、カンムリカイツブリが少ないことが目立ちました。

2日間合計で、来場者は2,258人、認められた鳥は29種+番外1種でした。会員の案内者は、延べで23名でした。

(担当 船津)

第27回「野鳥サロン」の実施報告

11月18日、計15名で、水の館研修室にて開催。

テーマは3つ：「鳥の翼を体感してみよう」(千葉洋)千葉氏手作りの創作モデルによる精巧な翼のデモンストレーションをみんなで印象深く体感した後、これを基にみんなで自由に想ったことを気軽に話しあった。翼とは、翼を動かす仕組み、機能、翼の形の各種など印象的で、瞠目しました。モデルは、就学児童を対象とする自然観察教育を行っている参加者の松本さんへ贈呈された。小型猛禽「ツミ」の貴重希少な映像をみんなで食い入るように見つめ、興味津々、さまざまなポジティブな反応・感想が聞かれた。ツミの保護保全、ツミ生態のなぞ、ツミの将来像などについてもいくつか言及があった。(小林美智子)。「スズメ・ドバト・ツバメ」など身近にいる鳥たちと、吾等「ヒト」との「出会い」「接点」の事例(3例ほど)を、「トリ」の目(とヒトの目)から眺めてみたら(田中功)のタイトルで実施(後半部は、タイムアウトでトルソに終わったが)。日頃見ているようで実はあまりよく観ていない鳥達の一面をチョット垣間見た感じ、との声もいくつかあった。今回のサロン全般につい

ては、参加の皆さんからも、興味ある感興をおぼえるサロンであったとの嬉しい感想もあった。

<参加者>間野吉幸、神部充、小林博之、畠中暁美、佐藤さなえ、松本勝英、金子幸子、徳重玲子、松田幸保、青木典子、坂元貴子、松村洋子(担当)小林美智子、田中功、千葉洋 計15名

市民のチカラまつり実施報告

(旧あびこ市民活動メッセ)

「市民のチカラまつり」は、我孫子市の市民活動団体を中心となり、行政・学校・企業・商店など多様な機関と連携しながら実施する街づくり交流イベントです。

11月25日、26日、けやきプラザ2Fふれあいホールを中心に入口エントランス広場及びアビシルベなどを会場として、市内の61市民団体が参加し、活動の紹介、体験型イベント、パフォーマンス、講演、シンポジウムなど、様々な市民活動が紹介・発表されました。また、7F研修室等では講演会・シンポジウム・フォーラムなども開催されました。

当会では、この市民活動イベントに継続して参加・出展しており、今回は、当会の活動紹介と探鳥会等で観察した写真のパネル展示、野鳥の写真をプロジェクター映写し鳥の名前を当てるクイズ「この鳥なーに？」

新たに作成した野鳥ビンゴの3プログラムを企画し、子供たちを中心に参加型ゲームを通して野鳥に親しんでもらいました。

新企画の野鳥ビンゴは4×4=16の枠に野鳥カード(表は写真で裏は名前)を裏向きでおき、袋の中のカードを順に20枚取り出して、取り出された種類のカードを表にしてビンゴをつくるゲームで、子供たちには大人気。ほとんど休む間がなく子供たちが訪れ、2日間で200人位は来てくれたと思います。鳥の名前当てクイズには47人が参加しました。中には当会のブースに入りびたりの女の子もいて、ビンゴゲームは10回以上、鳥名当てゲームは8種全てにトライし、2日目はアシスタントスタッフとして活躍してくれました。また、当会ブースはスタンプラリーのポイントにもなっていたので、スタンプの代

わりにフクロウのシールを用意して貼ってあげ、子供たちやお母さんたちに喜ばれました。

この機会を通じて、12月2日に行う「親子ふれあい探鳥会」の勧誘も行い、2日間とも親子連れの出場者で賑わいました。大人の方々の中にはパネル展示に興味を示し、当会活動の説明に耳を傾け熱心に質問される方もいらっしやるなど、啓発活動として意義ある活動になったと思います。

(担当幹事 桑森)

手賀沼親子ふれあい探鳥会実施報告

(手賀沼流域フォーラム)

日時 12月2日(土) 9:30~12:30
行程 手賀の丘公園~手賀沼(下沼)~手賀の丘公園
内容 手賀沼流域フォーラム地域企画の一環として、一般市民を対象にして当会会員が野山と水辺の鳥を案内し、家族に探鳥の楽しさを伝える親子ふれあい探鳥会を実施しました。

当日は風もなく好天に恵まれた絶好の探鳥日和で、野鳥も48種が観察されました。

昨年と同コースを選択、バーベキュー広場でピンズイ、野外ステージ付近でルリビタキと好調にスタート。じゃぶじゃぶ池付近ではシジュウカラ、桜の森ではヤマガラ等を観察しました。

手賀沼に向かう途中の田圃ではタヒバリ、ノスリをじっくり観察。手賀沼ではオナガガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ等の水鳥が観察できました。

ミサゴも上空を旋回、カワセミ、ミコアイサ、トモエガモも観察できました。

今年は例年になく水鳥の数が多く、参加者からも手賀沼の良さを再確認できたとの声が聞かれました。

鳥合わせの後、野鳥ビンゴの結果に応じた当会特製の「野鳥カード」や希望者には「塗り絵セット」のプレゼントがあり、子供たちは大喜びでした。親子ふれあい探鳥会の楽しさが実感できた一日でした。

<認めた鳥> コバクチョウ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、セッカ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ 計48種 番外 カワラバト
<参加者> 40名。うち一般24名、会員16名 青木典子、金子幸子、高波宣子、間野吉幸、小林寿美子、小林博之、徳重玲子、船津登、古出洋子、桑森亮、相良直己、千葉洋、金子雅幸、野倉元雄、肥後邦彦、野口隆也

統一クリーンデイ・ふれあい清掃

「一人ひとりの力でもっときれいな手賀沼に」をスローガンとした手賀沼統一クリーンデイ・ふれあい清掃が12月3日(日)に実施され、全体では450名、当会から11名の有志が参加しました。今年からナガエツルノゲイトウの駆除をふれあい清掃コースの一つに正式に位置づけ、啓蒙の意味で子供たちに参加してもらいました。星野市長の挨拶の後、清掃が始まりました。当会は今年も根戸新田ガードレール下沼側湿地と遊歩道沿いの清掃担当となりました。毎年実施している効果でゴミは少なくなったとはいえ、沼側湿地には心無い人が捨てたゴミがかなり見つかりました。1時間弱で作業を終え、参加賞のトートバッグ、飲み物を頂き、恒例の“じゃんけんゲーム”で勝ち残った人に景品が渡され、最後に市職員組合提供の豚汁を頂き散会しました。暖かく、無風の好天で気持ちよく清掃できました。

<参加者> 野口隆也、鈴木祐爾、松田幸保、間野吉幸、森本宜久、桑森亮、小林博之、船津登、千葉洋 (担当) 野倉元雄、小澤淳宏 計11名

11月役員会報告

日 時 平成 29 年 11 月 12 日 (日) 13:00~17:00

場 所 水の館 3F 研修室

出席者数 20 名

議 事

1. 2018 年度上期行事計画

2018 年度上期行事について検討し、次の通り決定しました。

月	実施日(曜日)	行事内容	担当(下線が主担当)
4	03(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	05(木)	ピオトープ調査	鈴木他
	08(日)	手賀沼探鳥会 定期総会、事務局会議	探鳥会：松本 事務局
	21(土)	葛西臨海公園探鳥会	相良、千葉、桑森
5	01(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	02(水)	ピオトープ調査	鈴木他
	13(日)	Enjoy 手賀沼バードウィーク 探鳥会(定例手賀沼探鳥会兼) 役員会	事務局 事務局
	20(日)~21(月)	裏妙義・伊香保森林公園探鳥会	金子(雅)、他 1 名
6	05(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	07(木)	ピオトープ調査	鈴木他
	10(日)	手賀沼探鳥会 事務局会議	探鳥会：小林、村井 事務局
	16(土)	新入会員オリエンテーション	相良、船津、野口(紀)
	18(月)~22(金)	台湾探鳥会	間野、田中、他 3 名
	24(日)	印旛沼・房総風土記の丘探鳥会	船津、村井
7	03(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	05(木)	ピオトープ調査	鈴木他
	08(日)	手賀沼探鳥会 役員会	探鳥会：小澤 事務局
	22(日)	Am 映写会 Pm 懇親会(昼食含む)	映写会：相良、石渡 懇親会：古出、野口(紀)、他 2 名
8	02(木)	ピオトープ調査	鈴木他
	05(日)	ホタルの夕べ	桑森、木村
	07(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	012(日)	手賀沼探鳥会 事務局会議	探鳥会：船津 事務局
9	02(日)	三番瀬探鳥会	野口(隆)、相良
	04(火)	手賀沼定点カウント調査	桑森他
	06(木)	ピオトープ調査	鈴木他
	09(日)	手賀沼探鳥会 役員会	探鳥会：桑森 事務局
	22(土)~23(日)	市民の子カラまつり 2018	事務局他
	30(日)	近場(我孫子・栢)探鳥会	千葉、船津、松本

なお、野鳥サロンは休止し、新たな勉強会を検討することになった。

2. ほーほーどり 260号掲載予定記事
会報 260号の掲載記事について検討し、執筆担当等を決定しました。
3. 第2四半期会計報告
会計担当が資料に基づき報告し、一部費用の整理項目を変更し、大綱了承されました。
4. 第28回野鳥サロンについて
1月28日(日)午後に開催予定で、詳細は行事案内をご覧ください。
5. 報告事項
次の事項が報告されました。
JBF2017 出展結果
市民のチカラまつり出展準備状況
芋煮会&手賀沼遊歩道探鳥会の準備状況
対外対応状況
事務局報告事項

以上

【対外支援・協同活動】

長寿大学探鳥指導

12月7日に39名の長寿大学生と、谷津田の探鳥会を実施した。天気にも恵まれ寒さは余り感じなかったが、鳥見としてはいささかお寒い状況で意外な鳥の出現もなく、はっきりとスコープに入れて観察して貰えた種類は少なかった。それでもそれなりに楽しんで頂けた様子で、ホタルの話やカラスウリの花なども含め、谷津田の素晴らしさは理解して頂けた様感じた。お誘いした定例探鳥会などに何人参加して頂けるかは未知数であるが、鳥見のファンが何人か増えた事は間違い無いと考えたい。

<認めた鳥> キジバト、カワウ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ 計26種

<協力頂いた会員> 田中功、松本勝英、桑森亮 (報告) 金子雅幸

鳥 だ よ り

ユーラシア大陸など北方から帰って来た渡り鳥たちが顔をそろえ始めました。キンクロハジロにホシハジロ、ジョウビタキやタゲリと冬の野鳥が次々と集まっています。アトリ科やホオジロ科の鳥たち、さらには中国系のミヤマガラスと一緒に随飛してきたコクマルガラスまで種々報告されています。

夏季には一桁の数しか見られなくなるオオバンが、冬季には三桁にまで増えますが、11月1日の調査では68羽がカウントされています。これらのオオバンは本州北部などから越冬をしに移動してきていると思われます。

昨年は多かったアトリが、今回の報告には見当たりません。アトリは大群で渡来する年とそうでない年が顕著な鳥で、今年は大群の飛来がないのかもしれない。

チュウサギは10月17日、ツバメは10月23日に終認されました。

いよいよ冬鳥の探鳥が楽しいシーズンです。寒さに負けず、鳥たちの営みを拝見しましょう

- 金子雅幸・船津登・桑森亮
- 9.21[上沼田]ノリ(1)
手賀沼沿いの野球グラウンド脇の電柱に
松本勝英
- 9.21[中峠]ツバ(4)
まだ中峠の林に居留、3羽止まっていた
松本勝英
- 9.24[光ヶ丘廣池学園]ツバ(1)
枝に飛来 飯泉仁
- 9.24[光ヶ丘廣池学園]ツバ(1)
枝に飛来 飯泉仁
- 9.24[光ヶ丘廣池学園]ツバ(1)
若鳥が枝に飛来 飯泉仁
- 9.24[光ヶ丘廣池学園]ツバ(1)
鳴きながら移動 飯泉仁
- 9.24[天王台]ツバ(1)
夜に自宅裏の林で鳴き声 桑森亮
- 9.24[岡発戸新田]ツバ(4)
刈田で餌探し 鈴木静治
- 9.24[手賀新田]ツバ(4)
刈田で餌獲り 鈴木静治
- 9.24[手賀新田]ツバ(1)
河原を飛ばす 鈴木静治
- 9.25[光ヶ丘廣池学園]ツバ(1)
赤色型個体が枝に止まり周囲を警戒
飯泉仁・飯泉久美子
- 9.25[泉村新田]ツバ(4)
田んぼの草原を移動
飯泉仁・飯泉久美子
- 9.26[泉村新田(手賀沼側)]ツバ(1)
葦に止る 船津登
- 9.27[中峠]ツバ(2)
今季初めて2羽が飛び立つ、まるで黄色
の弾丸のよう 松本勝英
- 9.28[発作]ツバ(1)
雨の中上空を飛ばす 鈴木静治
- 10.01[片山新田]手賀沼]ツバ(1)
葦原の上を飛翔 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.01[片山新田]手賀沼]ツバ(2)
水面の上を飛翔 飯泉仁・飯泉久美子
- 10.02[染井入新田(手賀沼側)]ツバ(1)
葦原を飛ばす 船津登
- 10.02[片山(手賀の丘公園)]ツバ(1)
桜の木に止る 船津登
- 10.03[手賀沼]ツバ(1)下沼1
金子雅幸・船津登・桑森亮
- 10.03[手賀沼]ツバ(1)上沼1
- 10.03[手賀沼]ツバ(1)上沼1
金子雅幸・船津登・桑森亮
- 10.04[染井入新田]ツバ(2)
田圃から飛び出す 桑森亮
- 10.05[大井新田地先(手賀沼)]ツバ(1)
沼上を低空飛行 桑森亮
- 10.05[岡発戸新田]ツバ(1)
池の葦原を歩く
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出
夫・金子雅幸・古出洋子
- 10.05[岡発戸新田]ツバ(1)
沼岸の葦原で鳴く
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出
夫・金子雅幸・古出洋子
- 10.10[片山(手賀の丘公園)]ツバ(6)
松の上に飛来し飛び去る 桑森亮
- 10.15[北新田]ツバ(1)
北新田 畠中暁美・松田幸保他2名
- 10.15[北新田]ツバ(3)
飛翔 畠中暁美・松田幸保他2名
- 10.15[北新田]ツバ(8)
北新田 畠中暁美・松田幸保他2名
- 10.16[天王台]ツバ(1)
夜に自宅裏の林で鳴き声 桑森亮
- 10.17[片山新田]ツバ(1)
田で採食 船津登
- 10.23[手賀の丘公園]ツバ(2)
船津登
- 10.23[泉村新田(手賀沼側)]ツバ(1)
湖面の上空を飛ばす 船津登
- 10.23[片山新田(手賀沼側)]ツバ(1)
葦原の上を飛ばす 船津登
- 10.24[岡発戸地先下沼]ツバ(10+)
沼中央を群れて泳ぐ 吉田隆行
- 10.26[東中新宿]ツバ(1)
自宅近くで鳴き声 飯泉久美子
- 10.26[片山(手賀の丘公園)]ツバ(3)
樹間を移動 桑森亮
- 10.26[手賀の丘公園]ツバ(1)
山道を歩っていた 吉田隆行
- 10.26[大井新田地先上沼]ツバ(1)
カラスに追われていた 吉田隆行
- 10.28[岡発戸新田]ツバ(1)
沼岸の葦原より鳴き声 鈴木静治
- 10.28[高野山新田]ツバ(1)
地上で採食 船津登

- 10.30[光ヶ丘廣池学園]ㄹ(1)
雄成鳥が林の枝に飛来 飯泉仁
- 10.30[片山新田先手賀沼]ㄹ(2)
北風の吹く中、水面上空を飛翔し採餌
飯泉仁・飯泉久美子
- 10.31[北柏ふるさと公園]ㄹ(1)
電線に止まり鳴いていた。 吉田隆行
- 10.31[北新田]ㄹ(約 70)
「ミャ～」という声が無ければ見つからないかも？ 畠中暁美
- 10.31[北新田]ㄹ(1)
越流堤傍で上空を飛んでいた 畠中暁美
- 11.01[大森]ㄹ(1)
パタパタというので双眼鏡で見たらジョウビタキの でした 古出洋子
- 11.01[手賀沼]ㄹ(5)
下沼 5 金子雅幸・船津登・桑森亮
- 11.01[手賀沼]ㄹ(8)
下沼 8 金子雅幸・船津登・桑森亮
- 11.01[手賀沼]ㄹ(1)
上沼 1 金子雅幸・船津登・桑森亮
- 11.01[手賀沼]ㄹ(1)
上沼 1 金子雅幸・船津登・桑森亮
- 11.01[手賀沼(ヒドリ橋)]ㄹ(数羽)
数羽松の中で動いて、モズに襲われる瞬間もありましたが無事でした
金子雅幸・船津登・桑森亮
- 11.01[高野山]ㄹ(3)
30羽ぐらいのミヤマガラスに混じって、
3羽のコクマルガラス 松田幸保
- 11.01[北新田]ㄹ(約 10)
「みゅー」という声もアンテナみたいな冠羽も可愛いですね 新堀正則
- 11.02[中沼田]ㄹ(1)
低地集水路の葦に止まる 鈴木静治
- 11.02[高野山]ㄹ(1)
山階鳥研の横の坂を登った畑でジョウビタキの雌 1 を観察 平岡考
- 11.02[弁天下]ㄹ(1)
電信柱から飛び立ち、チョウゲンボウにモビングされた 吉田隆行
- 11.02[岡発戸新田]ㄹ(4)
沼岸近くの上空を飛ぶ
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸・蒲田知子・千葉洋・古出洋子
- 11.02[岡発戸新田]ㄹ(3)
池を泳ぎ蒲の茂みに入る
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸・蒲田知子・千葉洋・古出洋子
- 11.02[岡発戸新田]ㄹ(1)
沼中の杭にカワウと一緒に止まる
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・金子雅幸・蒲田知子・千葉洋・古出洋子
- 11.03[天王台]ㄹ(1)
夜に自宅裏の林で鳴き声 桑森亮
- 11.04[日秀]ㄹ(1)
森より鳴き声 鈴木静治
- 11.06[片山(手賀の丘公園)]ㄹ(4)
松の木で動く 船津登
- 11.06[片山新田(手賀沼側)]ㄹ(1)
葦の根元で動く 船津登
- 11.07[江蔵地]ㄹ(2)
林の高木の茂みに止まる 鈴木静治
- 11.07[江蔵地]ㄹ(13)
二番穂の田の上を飛び、電線に止まる 鈴木静治
- 11.07[柏]ㄹ(1)
シジュウカラ・メジロの混群の中のキビタキ がブロック塀の上を歩く 吉田隆行
- 11.08[浅間前]ㄹ(4)
田の上を鳴きながら飛ぶ 鈴木静治
- 11.08[発作]ㄹ(1)
川中を泳ぐ 鈴木静治
- 11.08[発作]ㄹ(2)
川中を泳ぐ 鈴木静治
- 11.08[発作]ㄹ(1)
葦原・田の上を低空滑空する 鈴木静治
- 11.10[染井入新田地先(手賀沼)]ㄹ(1)
(1)沼上空を飛翔、採餌 化`ッガ 桑森亮
- 11.10[染井入新田地先]ㄹ(7)
水面を移動 桑森亮
- 11.10[別所]ㄹ(約 40)
池で群れ泳ぐ 鈴木静治
- 11.10[別所]ㄹ(3)
木の枝が池を覆うところを泳ぐ 鈴木静治
- 11.10[大井新田地先上沼]ㄹ(1)
木に止まり盛んに鳴いていた 吉田隆行
- 11.11[北新田]ㄹ(1)

- | | | | |
|----------------------------|-----------|-------------------------|------|
| 水路で採食 | 船津登 | 11.19[千間橋]赤ツノ(8) | |
| 11.12[北新田]タゲリ(約 40) | | 川中で潜水し餌獲り | 鈴木静治 |
| タゲリ 40 羽位飛翔姿 | 畠中暁美 | 11.19[千間橋]ツノカヅリ(2) | |
| 11.12[北新田]材カ | | 川中を潜水しながら泳ぐ | 鈴木静治 |
| 飛翔 | 畠中暁美 | 11.19[発作]死バ(5) | |
| 11.13[酒井根 6 丁目下田の森]ツノ(1) | | 田起し跡で餌探し | 鈴木静治 |
| 斜面林から鳴き声 | 飯泉仁 | 11.19[中峠]タゲリ(7) | |
| 11.13[都部新田]コマルカラス(3) | | 中峠で初認。利根川土手沿いの草原 | 松本勝英 |
| 中間羽が田んぼで採餌 | 飯泉仁・飯泉久美子 | 11.19[戸張新田]ツノカ(1) | |
| 11.13[片山(手賀の丘公園)]ツノカ(4) | | 鉄塔 95 から飛び出した | 吉田隆行 |
| | 船津登 | 11.20[片山(手賀の丘公園)]ツノカ(4) | |
| 11.13[片山新田(手賀沼側)]ツノカ(1) | | | 船津登 |
| 水辺で採食 | 船津登 | 11.20[片山(手賀の丘公園)]ツノカ(1) | |
| 11.14[戸張新田]ツノカ(1) | | 木に止る | 船津登 |
| 95 号鉄塔に止る | 船津登 | 11.20[片山新田(手賀沼側)]ツノカ(1) | |
| 11.14[泉村新田]ツノカ(3) | | 葦に止る | 船津登 |
| 地上で採食、草に止る | 船津登 | | |
| 11.14[大井新田]ツノカ(7+) | | 今回寄せられた鳥の全種名 | |
| 草むらで鳴いていたが、一斉に飛び立っ | 吉田隆行 | アオアシシギ、アオサギ、アオジ、アカハ | |
| た | | ラ、アマサギ、アリスイ、イソシギ、イソ | |
| 11.15[手賀新田]ツノカ(1) | | ヒヨドリ、ウグイス、ウソ、エゾビタキ、 | |
| 川、田の上を低空で飛ぶ | 鈴木静治 | エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオバ | |
| 11.15[大作新田]ツノカ(1) | | ン、オカヨシガモ、オシドリ、オナガ、オ | |
| 農道脇の電柱の低部に止まる | 鈴木静治 | ナガガモ、カイツブリ、カケス、カシラダ | |
| 11.15[北新田]ツノカ(10) | | カ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラ | |
| 水路 | | ヒワ、カンムリカイツブリ、クイタダキ、 | |
| 畠中暁美・松田幸保・桑森亮他 11 名 | | キジ、キジバト、キセキレイ、キビタキ、 | |
| 11.15[北新田]材カ(1) | | キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、クロ | |
| 越流堤 | | ハラアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コクマ | |
| 畠中暁美・松田幸保・桑森亮他 11 名 | | ルガラス、コゲラ、コサギ、コサメビタキ、 | |
| 11.15[片山新田(手賀沼側)]ツノカ(1) | | コチョウゲンボウ、コブハクチョウ、サシ | |
| 葦の根元で動く | 船津登 | バ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、 | |
| 11.16[江蔵地]死バ(4) | | シロハラ、スズガモ、スズメ、セグロカモ | |
| 川原の芝生で餌探し | 鈴木静治 | メ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、 | |
| 11.16[江蔵地]ツノカ(1) | | タゲリ、タシギ、タヒバリ、チュウサギ、 | |
| 川原の芝生上を低空で一直線に飛ぶ | 鈴木静治 | チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツツ | |
| 11.16[小堀]ツノカ(1) | | ドリ、ツバメ、ツミ、トビ、ノスリ、ノビ | |
| 川原の上空をバツグする | 鈴木静治 | タキ、ハイイロチュウヒ、ハイタカ、ハク | |
| 11.17[泉村新田(手賀沼側)]ツノカ(約 30) | | セキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、 | |
| 湖面を群れで泳ぐ | 船津登 | ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、ハヤ | |
| 11.17[戸張新田]ツノカ(1) | | ブサ、バン、ヒクイナ、ヒドリガモ、ヒバ | |
| 飛んでいた | 吉田隆行 | リ、ヒヨドリ、ピンズイ、フクロウ、ホオ | |
| 11.18[光ヶ丘廣池学園]ツノカ(1) | | アカ、ホオジロ、ホシハジロ、マガモ、マ | |
| 桜の木に飛来 | 飯泉仁・飯泉久美子 | ヒワ、ミサゴ、ミヤマガラス、ムクドリ、 | |
| | | ムシクイ sp、ムナグロ、メジロ、モズ、 | |
| | | ヤマガラ、ユリカモメ、ヨシゴイ | |

以上 98 種		飯泉仁	211
<番外種> カワラバト、コジュケイ		飯泉仁・飯泉久美子	187
		飯泉久美子	2
今回の投稿者の総投稿件数		平岡考	2
吉田隆行	31	鈴木静治	277
金子雅幸・船津登・桑森亮	79	鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・	
桑森亮	73	金子雅幸・蒲田知子・千葉洋・古出洋子	
桑森亮・間野吉幸	6		22
古出洋子	1	鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出夫・	
小山雄司	12	金子雅幸・古出洋子	22
松田幸保	5	総計	1158
松本勝英	14		
新堀正則	1		(弘實和昭)
船津登	147		
畠中暁美	11		
畠中暁美・松田幸保・桑森亮他 11 名	30		
畠中暁美・松田幸保他 2 名	25		

【会員だより】(ab-yacho より)

【9~10月鳥だより】

2017.10.20 桑森亮

9/30の我孫子・柏探鳥会ではノビタキが見られませんでした。1人でいると染井入落し周辺の農地でノビタキを良く観察しました。

10/10に手賀の丘公園でマヒワを観察しました。今年は少し早いような気がします。

【ミサゴの鳴き声】

2017.10.30 松田幸保

先日、雨の合間の日にミサゴねらいで手賀沼公園に行きました。

ミサゴの獲物は大きな魚だったようで、食べかけをしっかりとっていました。

そのうちにカラスが周りを飛ぶようになり、その度にミサゴは「ピョピョピョピョ」と鳴いていました。一度食べかけを持って姿を消しましたが、食べやすい場所の方が良いようでじきに帰ってきました。

ミサゴの鳴き声を久しぶりに聞きました、手賀沼ではチャンスは少ないようです。

【タゲリ発見】

2017.10.31 畠中暁美

今日午後暫くぶりに北新田に行ってみました。

金谷堰そばで遠くに群れが見えたので その方向に自転車で大急ぎで行ってみました。

やはりタゲリの群れでした。今年初めての遭遇です。

70羽くらいでしょうか？ 稚苗の中ではほとんど目立ちません。

「ミャ～」という声が無ければ見つからないかも？取りあえずお知らせです。

【Re タゲリ発見】

2017.10.31 松田幸保

タゲリの発見おめでとうございます。

私は別の冬の使者「ミヤマガラス」が、夕方に我孫子自動車教習所近くの電線に集まっているのを確認しました。

ハシボソガラスと離れて止まっていた、昼間はどの辺にいますか？

【コクマルもいました】 2017.11.01 松田幸保
我孫子自動車教習所近くの電線には 30 羽ぐらいのミヤマガラスに混じって 3 羽の
コクマルガラス（黒色型）がいました。ときどきミヤマにいじめられていましたが、そ
れでも一緒にいいですね！

【タゲリ発見の御礼】 2017.11.01 新堀正則
今回畠中さまの情報を得てタゲリを見つけることが出来ました。ありがとうございます。
10 羽程度の小さな群れでしたが、特徴的な飛翔姿をまず双眼鏡でキャッチして近くに
寄ってから撮影することが出来ました。“鳥” 急ぎお礼まで。
タゲリのみゅーという声もアンテナみたいな冠羽も可愛いですね。シギチの中でも、とて
も好きな鳥です。もっと近くで見られたらいいのですけれど…。

【中峠にジョウビタキやっとなりました他】 2017.11.02 松本勝英
中峠でジョウビタキ（ ）を今季初認しました。
おまけに、普段はあまり見られないヤマガラがすぐ脇のカキの木にメジロと共に居てくれ
ました。ここ数日、いつもの水路でキセキレイが可憐なダンスを披露してくれており、
「吉兆」鳥（？）は健在です。エナガ（20+）とシジュウカラの混群、オオタカとカラス
の空中戦、久し振りのクサシギ（3羽）などなど・・・。

【Re 中峠にジョウビタキやっとなりました】 2017.11.02 平岡考
ジョウビタキのご報告ありがとうございました。
今日通勤途上に、私も山階鳥研の横の坂を登った畑でジョウビタキの雌 1 を観察しました。
昨日アオジの地鳴きもしましたし、冬の鳥が続々到着ですね。

【オシドリがやってきました】 2017.11.07 古出洋子
今朝印西市別所公園に行ってきました。ざっと見る限りではマガモとホシハジロの群れ
だけだと思っていましたが、やがて繁みからオシドリの番が現れました。
対岸の木の枝にも番が止まっていた。もっと隠れているのか判りませんが
今年もオシドリがやってきましたのでお知らせします。

【中峠にタゲリがやっとなりました】 2017.11.19 松本勝英
今日、昼前、利根川土手沿いの草原でタゲリ 7 羽を見つけました。
少しずつ離れて、採餌していましたので、集合写真は無理でした。その前にタヒバリが
ハクセキレイと混ざっているのも見ました。これで、タゲリ、タヒバリが中峠では初認し
たことになりました。15 日のアオジ、17 日のツグミが初認でした。続々と冬鳥到来で
す。あとは、常連のシメ、カシラダカ、時々ベニマシコ、ルリビタキを待っています。

【11 月の鳥だよりから】 2017.11.21 桑森亮
手賀沼のカモはマガモ、ヒドリガモ、コガモを中心に多くなっているようです。
カワセミ、クロハラアジサシも良く見かけました。
自宅裏の小さな林で 9 月からフクロウの鳴き声が時々聞こえましたが、11 月初旬までで
最近では聞かれなくなりました。
北新田ではツグミやアオジ、カシラダカを観察し、冬鳥が本格化してきたようです。

会からのお知らせ

< 芋煮会 & 手賀沼遊歩道探鳥会 > (2017.11.23)

参加者の減少傾向に歯止めを掛ける為、企画を練り繰り上げ実施を予定した芋煮会 & 探鳥会であったが、当日に限り冷たい雨降りとなり中止せざるを得ない悲しい結果となってしまった。35年連続開催の記録も叶わなかった。

64名もの皆様に参加の予定を頂きましたが、H30年度の芋煮会では今回の分まで取り返す様、より多くの皆さんで盛大に楽しみましょう！！

< 新入会員紹介 >

鍋倉妙子 (印西市在住)

Michael Norton (マイケル ノートン) (東京都在住)

松崎英一・松崎恭子 (三郷市在住)

佐藤さなえ (我孫子市在住)

江原園子 (東京都在住)

< ご寄附 >

首藤美恵子さん、台湾・モンゴル参加者歓迎会の有志よりご寄付を頂きました。
厚くお礼申し上げます

ほーほーどり No. 260 (2018年1~2月号)

発行 2018年1月1日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、千葉洋、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270 1143 我孫子市天王台 2-15-17 桑森亮 Tel: 04-7182-3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円 (大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)